

道路空間の再編

歩道空間の課題

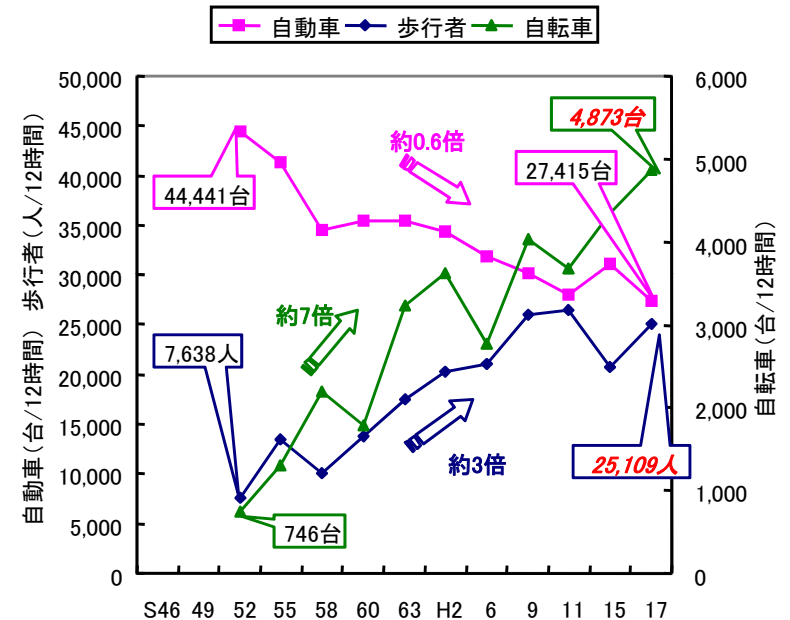
- ・大阪のメインストリート・御堂筋。その沿道は大阪を代表するビジネス街、多くの商業施設が集積。
- ・にぎわう御堂筋の歩行者は約25千人／12h、自転車は約5千台／12hと多く、利用者の約8割が危険と認識。
- ・路上放置駐輪も約9千台／18hと多く、歩道空間をさらに圧迫。



にぎわう御堂筋の状況（駐輪により狭くなった歩道を歩行者と自転車が輻輳）

■御堂筋の交通の利用状況（心齋橋）

自動車は減少傾向。歩行者・自転車は増加傾向。



■路上駐輪の状況

（平日6時～24時：18時間）

	梅田	淀屋橋	本町	心齋橋	難波	全体
延べ駐輪台数（台/18時間）※ （ ）は1mあたりの台数	815 (1.54)	924 (0.63)	2,974 (1.20)	2,002 (1.78)	2,005 (2.55)	8,720 (1.36)

※調査日6時以降の駐輪実施台数の合計。調査日より前から駐輪している自転車は含まない。〔調査日：平成16年10月13日(水)〕



路上駐輪の状況（難波・新歌舞伎座付近）

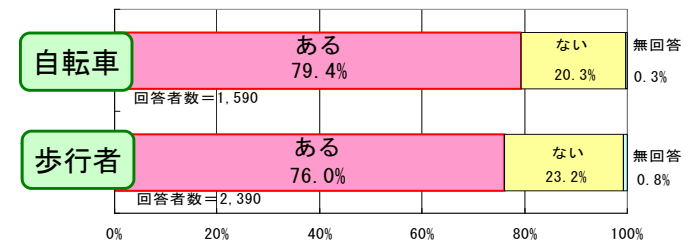


地域の方々による不法駐輪防止の啓発活動

■御堂筋の利用者へのアンケート結果

「自転車・歩行者により危険を感じたことがある？」

約8割の利用者が『ある』と回答

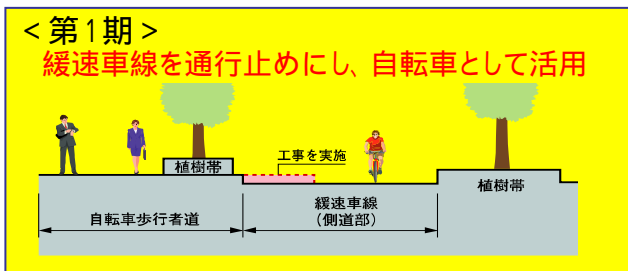


道路空間の再編

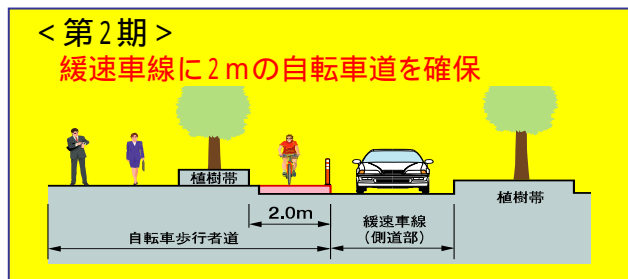
- ・歩行者と自転車が安全かつ快適に通行できるにぎわい空間の創出が必要。
- ・緩速車線を自転車道として活用する社会実験を実施し、自転車利用者の約8割、歩行者の約7割が安全と評価。
- ・社会実験の結果を踏まえ、課題解決に向けた検討、関係機関との協議、地元の意向把握等を推進中。

社会実験の概要

実施期間：平成18年10月(約1ヶ月) 実施区間：久宝寺町3～新橋北交差点



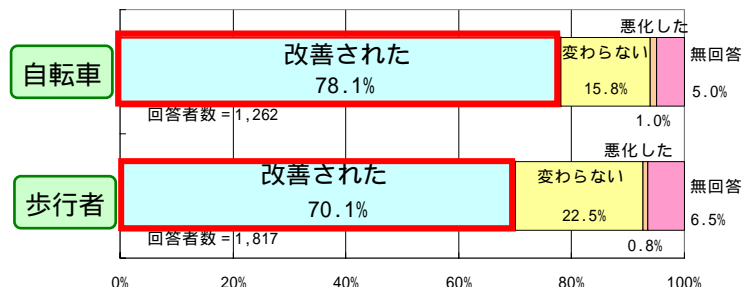
第1期の社会実験状況



第2期の社会実験状況

実験中の御堂筋の利用者へのアンケート結果

「通行中の事故に対する危険性は？」



課題

自動車交通への影響(渋滞対策)

沿道商業施設等への荷捌きのために駐車するトラック等の対策

緩速車線を利用するバス、タクシーの対策

道路空間再編の経緯と調査検討・調整状況

- 平成16年 3月 『明日の御堂筋委員会』が「御堂筋再生プラン」を公表
ひとの道プロジェクト・・・道路断面の見直し(側道の歩道化)
- 6月 『御堂筋まちづくりネットワーク』が「御堂筋STYLE創生」を提案
側道を歩行者自転車道に変更。(現歩道は歩行者専用)
- 平成17年 9月 『NPO長堀21世紀計画の会』が「御堂筋「みち」の再生計画」を提案
側道を新交通や自転車の通行する“ゆったりモードゾーン”に
(現歩道は歩行者専用)
- 平成18年10月 社会実験の実施(緩速車線を利用した歩行者・自転車の分離)
- 平成19年度 現況交通状況の把握及び空間再編の検討
- 平成20年 御堂筋沿線地区(6地区)での意見交換会を開催
- 2月 久宝地区
- 3月 芦池地区
- 10月 精華地区、御津地区
- 11月 愛日・船場地区(合同)
- 9月～ 荷さばき実態調査、沿道ビルへのヒアリング等や空間再編に関する検討を実施中。